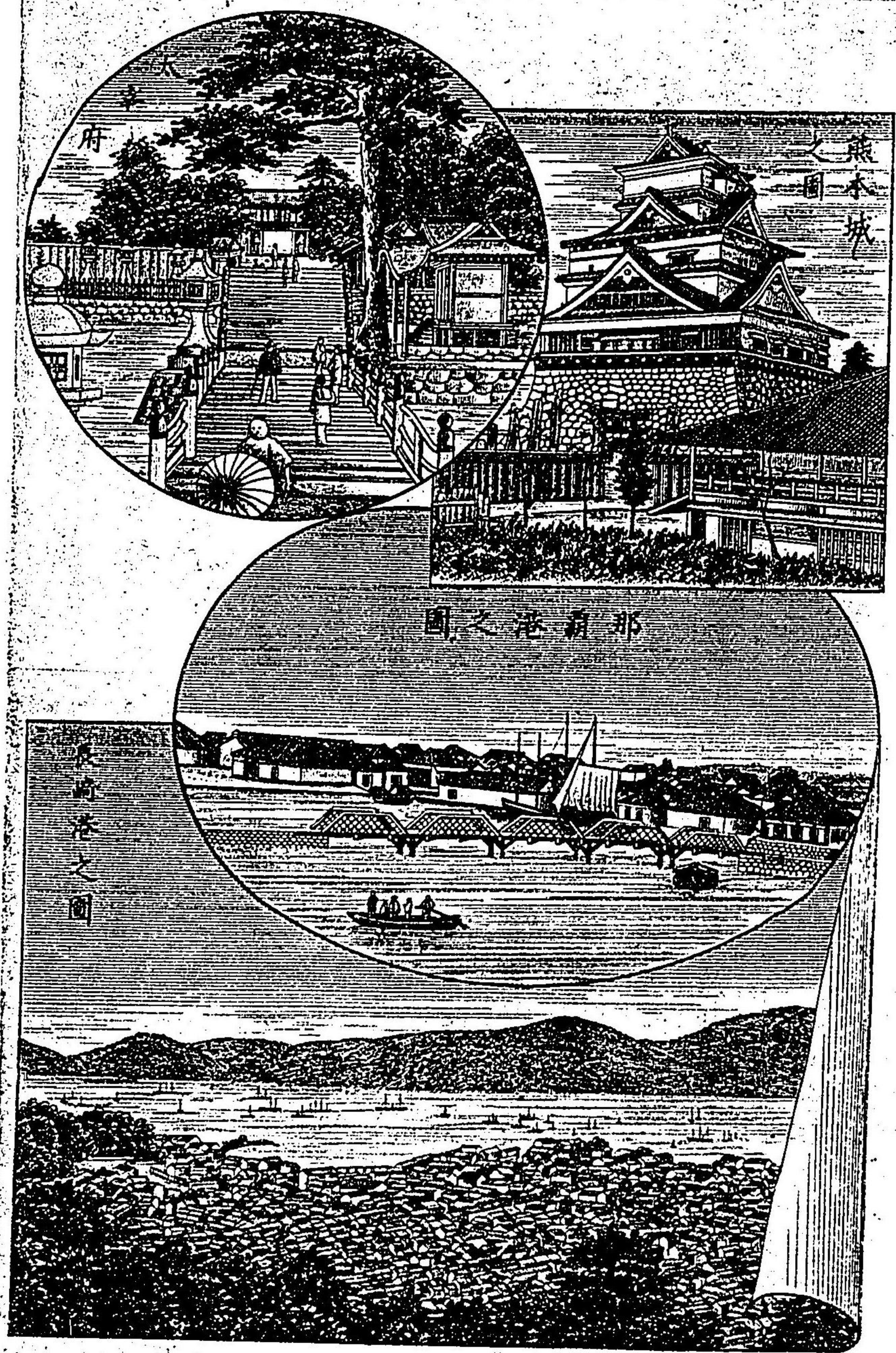


本道第一の高山なり。北派は、五島、平戸の諸島より、肥前に連りて、國の中央を東北に進み、筑前、豊前を経て、中國山脈に連る。此山脈中、重なる山岳は、國見岳、領巾振山、天山、脊振山、寶滿山、福知山等にして、概ね、二三千尺の高さあり。霧島火山脈は、薩南諸島より來り、大隅、日向の界に入りて、西北に向ひ、海を渡りて、再び肥前の島原半島に顯る。霧島山は、脈中の主岳にして、東西の二峰あり。西峯は、高さ、五千四百七十八尺、東峰は、之よりも稍低し。此の他、開聞岳(三、〇六九)、櫻島岳、温泉岳(四、六九〇)等は、其の重なる山岳なり。阿蘇火山脈は、九州山脈の二脈の間に噴出せしものにて、霧島火山脈の北に接續し、肥後の東部より、豊前、豊後の間に入り、國東半島より、海に没して、四國に渡る。阿蘇山は、其の主峯にして、高さ四千六百八十尺あり。その舊火口は、長さ七里、廣さ四里に及び、世界に稀ある大火口なり。今は、其の口内に、五箇の火山を噴起したり。此の外、尙、著名ある山岳は、涌蓋山(五、〇

七〇)九重山(六、一五〇)、鶴見山(五、二四〇)、由布山(六、五七〇)、英彦山(三、三六〇)等あり。

本道には、火山多きを以て、温泉頗る多く、殊に、肥後、豊後には、殆ど、到る處に在り。

(六)河流 本道中、河流の大なるものは、筑後川、川内川、球摩川、大野川、美々津川、五箇瀬川、一ノ瀬川、大淀川等なり。筑後川(三五)は、一に筑紫二郎と稱す、其の上流は、豊後の日田川にして、豊後、肥後の諸水を合し、筑前、筑後の界を流れ、久留米の北を経て、肥前、筑後の界を成して、筑紫瀧に入る。此の川は、水量の大なるを以て、本道に冠たり。川内川(四六)は、源を日向の西南隅の諸山に發し、大隅、薩摩を経て海に入る。之を本道第一の長流となす。球摩川(三四)は、我が國三急流の一にして、肥後南部の諸山より發し、西北に流れ、八代、代、海に入る。大野川(三四)は、豊後の西南にある諸山の水を集め、東北に向ひて、別府灣に入



る美々津川、五箇瀬川、一瀬川、大淀川の四川は、共に日向西部の山間より發し、並行して東に流れ、日向灘に入る。此の他、尚、筑前の遠賀川、肥後の白川、豊前の山國川等稍、大なり。山國川の上流に、有名なる耶馬溪の勝あり。

(七)氣候 九州の氣候は、一般に温暖なり。其中、西北部は、南は山岳を負ひ、北は日本海に面するを以て、冬季は、風雪多く、氣候寒冷なり。と雖、南部に進むに従ひ、次第に温暖なり。日向、大隅、薩摩の如きは、積雪甚た稀にして、更に琉球に至れば、周歲霜雪を見ず、氣候炎熱あり。即ち、那覇の全年平均溫度は、二十一度六分にして、覺島は、十六度九分、熊本は、十五度八分、福岡は、十五度なり。雨量も、亦、南部に多くして、北部に少し。

(八)物産 本道の物産は、石炭を最とし、全國總産額の過半を占め、北部及び南部には、到る所に之を産す。其中、三池、高島、唐津、天草等は、

著名の産地あり此の他尙鑛物の主要あるものは薩摩大隅の金にして其の産額全國第一たり銀も亦同所より出づ又製造品農産物等の主要なるものは肥前肥後の米長崎國府薩摩の煙草筑前の博多織久留米薩摩の紵小倉織大島紬琉球の芭蕉布有田薩摩の陶器豊前筑後の生蠟日向の半切薩摩の七島蕙琉球及び大隅諸島の砂糖漆器等あり又水産にハ五島鯨肥前烏賊薩摩鯉節等最も名を知らる而して漁獵ハ肥前の近海に最も多し牛馬の牧養は本道の各地皆盛にして牛は大隅馬は薩摩より出づるもの殊に名あり又甘藷煙草茶等は本道中の諸國より多く産出せり

第二 處誌

(一)福岡市及び其の近傍 福岡市は福岡灣に臨み福岡博多の二町



に分れ、那珂川其の間を流る。人口、五万八千、商業頗る繁盛なり。舊と黒田氏の城地にして、今は福岡縣廳ありて、筑前筑後の二國、及び豊前の四郡を管轄す。又、第六師團の分營あり。福岡市の南五里餘に、太宰府あり、往昔、官府のありし所にて、菅原道真公を祭れる天満天神の祠あり。是より南、筑後に入れば、久留米あり、総の産地あり。その南に、柳川あり、共に繁昌の都邑あり。又、その南に三池あり、石炭坑を以て著る。又、福岡市の東北一里餘に、箱崎神社ありて、應神天皇を祀り。

豊前の小倉は、福岡市の東北十八里にあり、繁昌の港にして、人口壹万八千、此の地より、小倉織を出す。又、第六師團の第十二旅團を置けり。小倉の東北に門司港あり、赤間關と相對して、海陸の要衝に當り、灣内水深く、大船を舶すべし。此の港は、特別輸出港にして、常に内外の船舶集合せり。

(二)佐賀市及び其の近傍 佐賀市は肥前の東部に位し、佐賀縣廳ありて、肥前の一市八郡を管轄す。舊と鍋島氏の城地にして、人口二萬八千、繁華の地たり。

佐賀市の西に方りて、唐津港あり、特別輸出港なり。石炭及び陶器を産す。その南の半島に在る名古屋へ、往昔豊臣秀吉征韓の役に、本營を置きし所あり。是より南に回りて、伊万里灣あり。此の灣に近き伊万里及び有田は、共に陶器の産出を以て、その名を知らる。

(三)長崎市及びその近傍 長崎市は肥前の南部なる野母崎半島の頸部に位し、長崎縣廳ありて、壹岐對馬及び肥前の一市六郡を管轄す。その入海は、即ち長崎港にして、開港以來、殆ど三百年に及び、我が國五港の中、最も舊き港なり。人口六萬五千、内外の船舶常に輻輳して、貿易繁盛なり。

長崎港の入口には、小島多く散在せり。その中、高島は、石炭坑を以て

名を知らる。その東の島原半島に、島原及び口津の二港あり、口津に特別輸出港たり。

長崎の北方鯛浦の口に、佐世保ありて、海軍鎮守府を置けり。その他、平戸、福江等、皆國中の名邑たり。又、壹岐の勝本、對馬の嚴原も、碇舶の地にして、稍繁華あり。

(四)熊本市及びその近傍 熊本市は、肥後の西北部に方りて、白川の岸にあり。熊本縣廳を置きて、肥後一國を管轄す。人口七万一千、九州の大都會たり。舊と細川氏の城地なり。その城は、加藤清正の築造に係り、名城の聞えありしが、西南の役、兵燹に罹れり。今、その跡に第六師團を置けり。又、この地に、第五高等學校あり。

熊本市の南、宇土半島に、三角港あり、規模少なれども、稍大船を入るべし。特別輸出港たり。八代も、亦、小繁華の港なり。又、熊本市の北部に、隈府、山鹿等の名邑あり。

(五)覺島市及びその近傍 覺島市は、覺島灣の西岸にあり、覺島縣廳ありて、薩摩、大隅の二國を管轄す。舊と島津氏の城地にして、人口五萬五千あり、陶器を産す。港内には、船舶常に出入して、市況頗る繁盛なり。覺島造士館此處にあり。

覺島市の北五里餘に、加治木あり、大隅に屬し、覺島灣に望める。小繁華の地なり。其の東に、國府あり、烟草の産地なり。其の他、薩摩には、谷山、加世田、阿久根、大隅には、末吉、垂水等の名邑あり。

(六)宮崎町及びその近傍 宮崎町は、日向國大淀川の口にありて、人口九千餘、宮崎縣廳ありて、日向一國を管轄す。

宮崎町の西南、大隅に接して、都城あり、國中の大市街にして、人口一万二千餘あり。其の他、延岡、高鍋、飢肥等の名邑あり。又、細島は、北部にある要港たり。此の國は、天孫降臨以來、神武天皇に至る迄、御宮居のありし地にして、國中所々に、其の御遺跡あり。

(七)大分町及び其の近傍 豊後の大分町は、別府灣に臨む。大分縣廳ありて、豊後一國及び豊前の二郡を管轄す。人口一萬一千餘、繁華の地たり。

大分町の北に、別府の温泉あり。四時浴客多し。又其の北に、日出、杵築等の名邑あり。中津の豊前に屬し、人口一萬三千あり。繁華の地なり。其の東の宇佐に、宇佐神社あり。和氣清麿の神勅を受けし社なり。又大分町の南には、臼杵、佐伯等の名邑あり。其の西に、竹田町あり。

(八)那覇及び其の近傍 琉球の那覇は、沖繩島の西岸にある港にして、人口三萬二千、繁華の地たり。沖繩縣廳ありて、琉球諸島を管轄す。那覇の東一里に、首里あり。此の地は、舊と藩王尙氏の城地にして、人口二萬五千、第六師團の分營あり。又島の西北岸に、運天港あり。稍大船を舶すべし。此の他、座間味島の安護港、入表島の船浮港は、共に、良港なり。

第九節 北海道

第一 總説

(一)位置廣袤人口 北海道は、我が國の最北に位して、蝦夷島と千島列島とより成れり。蝦夷島は、南に、津輕海峽を隔て、本州と相對し、東南に、太平洋に臨み、西北は、日本海及びナコーツク海の瀕せり。又、千島列島の蝦夷島の東端より、北東に羅列して、太平洋とナコーツク海との分界を爲し、其の最北端に、久留里海峽を隔て、露領甘察加と相望めり。

全道の面積は、六千〇九十五方里、人口、三十七萬九千餘、即ち、一方里よつぎ、六十二人の割合にして、全國中、人口、最も稀なる地方なり。

(二)區劃 本道十一國を分ちて、二區八十八郡となし、北海道廳を置き、之を全管せり。

渡島國

一 區函館……
六 郡龜田、上磯、茅部、松前、檜山、爾志、

後志國十七郡

久遠、奥尻、太櫓、瀬棚、壽都、島牧、歌棄、磯谷、岩内、古宇、小樽、高島、忍路、餘市、古平、美國、積丹

石狩國

一 區札幌
九 郡札幌、石狩、厚田、濱益、空知、夕張、樺太、雨龍、上川、

天鹽國六郡

增毛、留萌、苫前、天鹽、中川、上川、

北見國八郡

宗谷、枝幸、利尻、禮文、網走、斜里、常呂、紋別、

膽振國八郡

山越、室蘭、有珠、虻田、幌別、勇拂、白老、千歳、

日高國七郡

浦河、沙流、新冠、靜内、三石、様似、幌泉、

十勝國七郡

廣尾、當縁、十勝、中川、河西、河東、上川、

釧路國六郡

釧路、白糖、阿寒、足寄、上川、厚岸、

北海道廳

根室國五郡

根室、花咲、野村、標津、目梨、

千島九郡

國後、擇捉、紗那、振別、藥取、色丹、得撫、新知、占守、

(三)地勢

蝦夷島の地形は、恰も赤罽の如くにして、大山脈は、南北に走れる蝦夷山脈と、東西に亘れる千島火山脈と、十字形を爲し、その交叉點は、地勢最も高峻なり、故に、全島は、凡そ四個の三角形に分れ、其の間に、各平野ありて、大小の河流、これを灌漑す、又、本島の西部は、地形曲折して、山岳多く、隨ひて、平野に乏し。

(四)海岸

本道の海岸は、屈曲多からず、蝦夷島は、北に宗谷岬あり、宗谷海岬を隔て、露領樺太と相距ること、僅に十餘里、東に、知床、納紗布の兩岬ありて、其の間に、根室灣あり、根室海峽を隔て、千島の國後島と相對す、納紗布岬を南に廻りて、釧路の海岸に、厚岸灣あり、又、本島の南に、襟裳岬あり、西南に、渡島半島あり、此の半島は、本州の青

森灣と相對して、其の東西の端は、惠山岬、白神岬なり。兩岬の間に函館灣あり。渡島半島は、東北に火山灣を抱きて、膽振の繪鞆岬と相對し、又、西は、日本海に面して、白糸岬あり。其の北に、神威、積丹の兩岬あり。積丹岬の東は、小樽灣にして、遙に、雄冬岬と相望り。此の岬の北は、殆ど一直線にして、宗谷岬に至るまで、屈曲なし。

千島列島は、根室海峽より、其の北端の占守島に至るまで、凡そ三百餘里の海上に羅列せり。その中、國後、擇捉、得撫、幌筵の四島を大なるものとし、色丹、溫彌、古丹、波羅茂里、占守等、總て、三十二島より成れり。その他、本道の屬島は、尙多しと雖、皆、小島嶼に過ぎず。

(五)山脈 蝦夷島には、蝦夷山脈と千島火山脈と相交又せること、既に述べしが如し。今、その中の著名なる山岳を擧ぐれば、蝦夷山脈には、宗谷岳、千登蟹牛岳、神威岳、五、四〇〇、獵虎岳、四、六八〇、等ありて、千島火山脈には、斜里岳、五、四〇〇、雌雄阿寒岳、雌、四、七九〇、メタ、アカウ

シベ岳、七、五〇〇、十勝岳、七、〇〇〇、石狩岳、及、樽前岳、余市岳、有珠岳

(三、三、四)遊樂部岳、五、一〇〇、駒岳、三、六二〇、惠山等なり。その中、メタ

アカウシベ岳は、本島第一の高山にして、その他、諸山と共に、之をオ

プタテシケ山彙と稱せり。又、千島の阿頼度島に、アライト岳、七、一〇

〇、國後島に、茶々岳、七、四〇〇、幌筵島に、フス峯、六、九〇〇、等あり。

(六)河流 本道の河流は、石狩川(一六七)を最大とす。即ち、我が國第一の長流にして、その源を、石狩、十勝、兩岳の間より發し、石狩平原に出で、雨龍川、空知川を合せて、益々大となり、南流して、千歳川と合し、遂に、日本海に入る。その河口は、即ち、石狩港にして、河幅四百間餘、鮭漁、甚だ盛なり。

石狩川に次ぐは、天鹽川(七〇)にして、其の源を、石狩、十勝、兩岳の北より發し、天塩の東北部を北流して、日本海に入る。

十勝川(五〇)は、十勝の西北諸山より發する諸川を合し、十勝平原を

回流して、太平洋に注ぐ、

久壽里川は、釧路の北境なる釧路湖より發し、南流して、國中の諸水を集め、其の下流に至り、阿寒川を合せて、釧路港に注ぐ。

此の外後志の後志川、北見の常呂川、湧別川等は、皆國中の灌漑を爲すこと尠からず。

湖沼は、北見の猿間湖(周回十八里)を最大とし、根室の楓蓮湖(十五里)之に次ぎ、其の他、膽振の洞斧湖、支笏湖、北見の網走沼等あり。

鑛泉は、全道に六十餘ヶ所あり、其中、著れたるは、渡島の惠山湯、河汲湯、後志の雷電湯、膽振の登別湯等なり。

(七)氣候 本道の氣候は、一般に寒冷なりと雖、千島帯火山脈より、南部の太平洋に面する部分は、寒氣稍弱くして、積雪も亦多からず、チヨーツク海及び日本海に瀕する部分は、寒冷なる潮流の流通するを以て、冬時は、寒威甚しく、氷雪の、毎年十月より、翌年四月迄の間、全

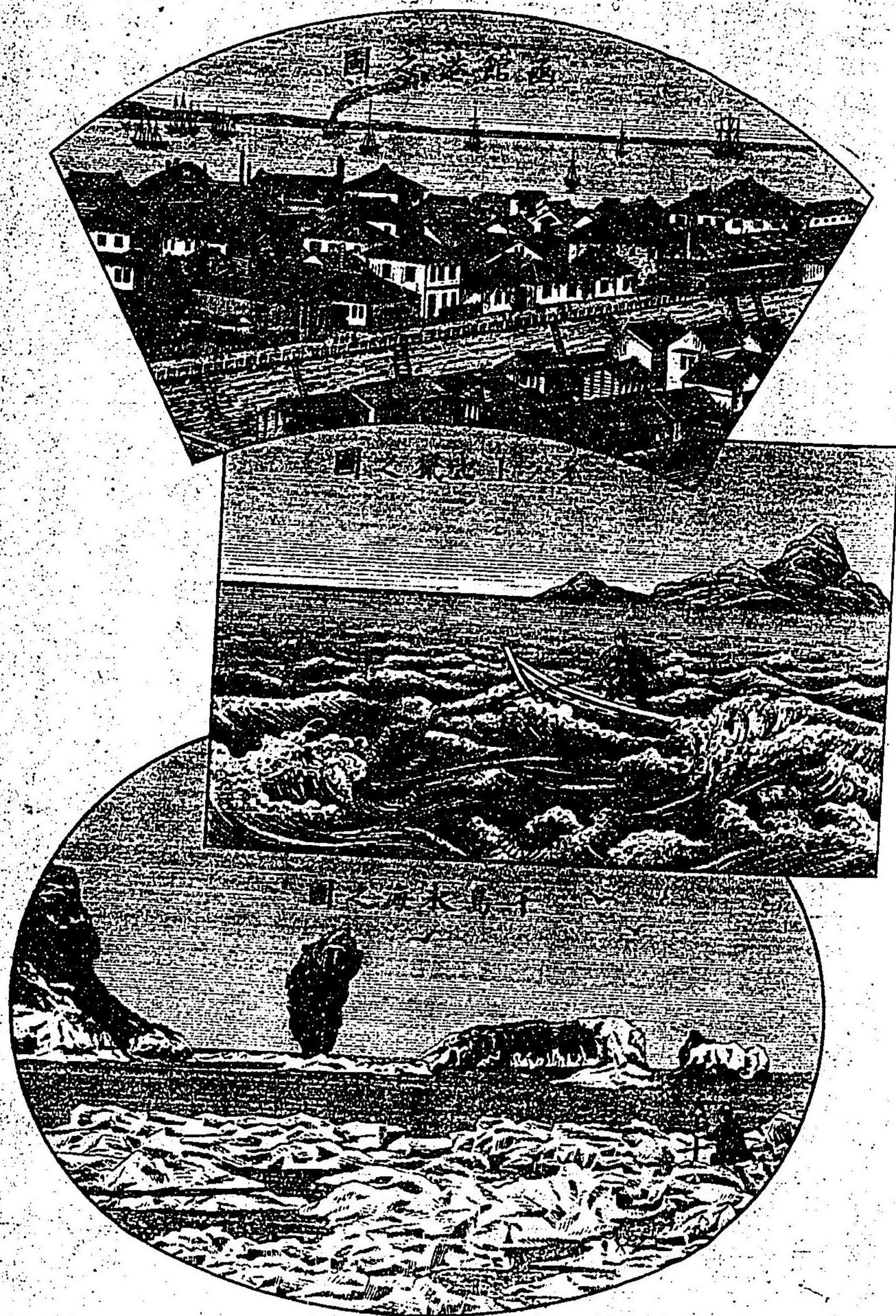
く融けず、草木ために枯凋するに至る。各地の一年平均溫度を掲ぐれば、札幌は、七度、函館は、八度四分、根室は、五度九分、釧路は、五度二分あり、故に、其の寒氣は、決して人の堪へ難き程にあらず。雨量は、甚だ少くして、畧瀬戸内海岸と等しく、或は、之よりも少き所あり、札幌、網走等は、即ち、是れにして、殊に、網走は、全國中、最も雨少き地なり。

(八)物産 本道は、土地未だ開けざるを以て、製産に乏し、然れ共、天産物は、頗る豊にして、殊に、海産の、鮭、鱒、鱈、鱈、昆布の類より、臘、鹿、虎、鯨等の海獸ありて、其の産額、全國に冠たり、又、農産には、豆、麥、馬鈴薯、蕎麥、藍、麻、果實等、多く、米作及び養蠶も、漸く開けたり、鑛産には、石炭、硫黃、最も多くして、夕張、幌内、幾春別、空知、岩内等に、廣大なる炭坑あり、跡佐登より出づる硫黃の産額、全國第一なり、遊樂部の、銀山も、亦、著名なり、牧畜は、未だ進まずと雖、稍、適地あるが如く、繁殖の

勢あり、現に牛馬の數六万頭餘に及ぶと云ふ。本道は、又森林に富みて、檜、松、蝦夷松、赤楊等の森林多く、その材木は内地にて製造する早附木の材料に供す。又海外に輸出するものもあり。

第二 處誌

(二) 札幌區及び其の近傍 札幌區は、石狩平原の西南隅に位し、北海道廳の在る所にして第七師團を置けり。人口二万八千餘、農學校、博物館、及び諸種の製造所等ありて、市街甚だ繁盛なり。札幌の西に小樽あり、小樽灣に臨む。港内は、船舶輻輳し、人口三万四千あり、函館に次ける都會なり。小樽港より札幌を経て、北は、空知、太、幌内等の炭山及び、南は室蘭に達する鐵道ありて、交通甚だ便利なり。その他、後志の壽都は、壽都灣に臨みて、小繁華の地なり。又、天鹽の増毛、留萌、苫前等は、皆海岸の小邑なり。



(二)函館區及び其の近傍 函館區は、函館灣に臨み、人口六万六千餘我が國五港の一なり、豪商軒をならべ、諸會社銀行等あり、港内は、水深く船舶の出入絶えず、商業頗る繁盛にして、本道第一の都會たり、函館港の西に、福山、江差の兩港あり、福山は、舊と松前氏の城地にして、人口一万餘あり、江差は、西海岸に臨みて、人口一万五千あり、共に、繁華の港なり、又、室蘭は、襟裳岬の北に、位せる要港にして、海軍鎮守府の豫定地たり、室蘭の東、膽振、日高の海岸に、苫小牧、浦河、幌泉等の小邑あり。

(三)根室及び其の近傍 根室港は、根室灣の南岸に在る要港にして、人口一万四千餘、繁華の地たり、其の南には、釧路に厚岸、釧路の兩港あり、北見の海岸に、網走、斜里等の諸邑あり。

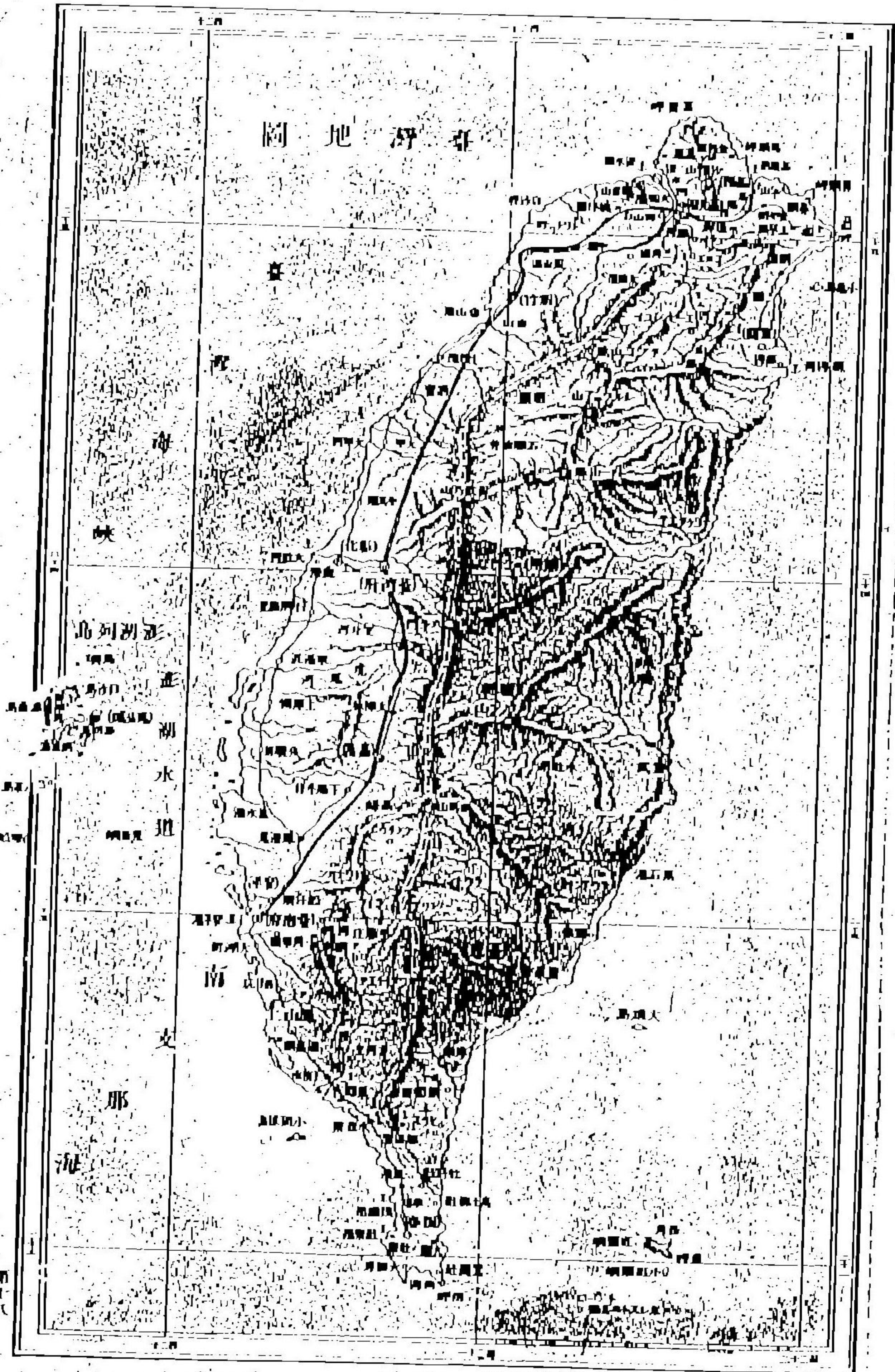
千嶋列嶋は、總て、人口稀疎にして、都邑と稱すべきものなし、唯、擇捉島の紗那を舟泊の場所と爲すのみ。

第十節 臺灣

第一 總說

(一)位置廣袤人口 臺灣は琉球與那國島の西南、大約百餘里の海上に孤立せる大島にして、西は臺灣海峡を隔て、支那と相對し、南は、バシイ海峡を隔て、西班牙領のフィリピン群島と相望り、本島の形は南北の長さ百里餘、東西の最も廣き所三十里餘あり、面積は、島を合せて、二千五百十四方里、人口、大約三百萬あり、本島の周圍に、澎湖列島、紅頭嶼、火燒嶼等の屬島あり、其の中、澎湖列島は、大小五十餘の島嶼より成れり。

(二)地勢 本島の地形は、中部最も廣く、南北に至るに従ひて漸く狭し、山脈は、稍、東部に偏して、南北に連亘するを以て、自ら、地勢を狭長なる東西の二部に分てり、而して、其の中部より南は、最も高峻にして、



一 萬尺以上の高峰あり、河流は、此の山脈より發して、東西に注下せり。山脈以西の地は、丘陵起伏せりと雖、概ね、廣潤の平原なり。又、其の東は、支脈多く分派して、地面の傾斜甚しければ、平地鮮し。

(三) 區劃 臺灣は、我が版圖に歸せしより、日尙淺きを以て、行政區劃は、將來變更を要するものあるべしと雖、現今の制度によれば、臺北に總督府あり、その下に、三縣を置きて、全島を分管せり。

- 北部 臺北 淡水 新竹 宜蘭 基隆
- 西部 臺灣 彰化 苗栗 雲林 埔裡社
- 南部 臺南 安平 鳳山 嘉義 恒春
- 東部 臺東

- 屬島 澎湖島 紅頭嶼 火燒嶼
- 澎湖島廳

(四) 海岸 臺灣の海岸は、屈曲甚た少し、西岸は、概ね沙濱にして、東岸

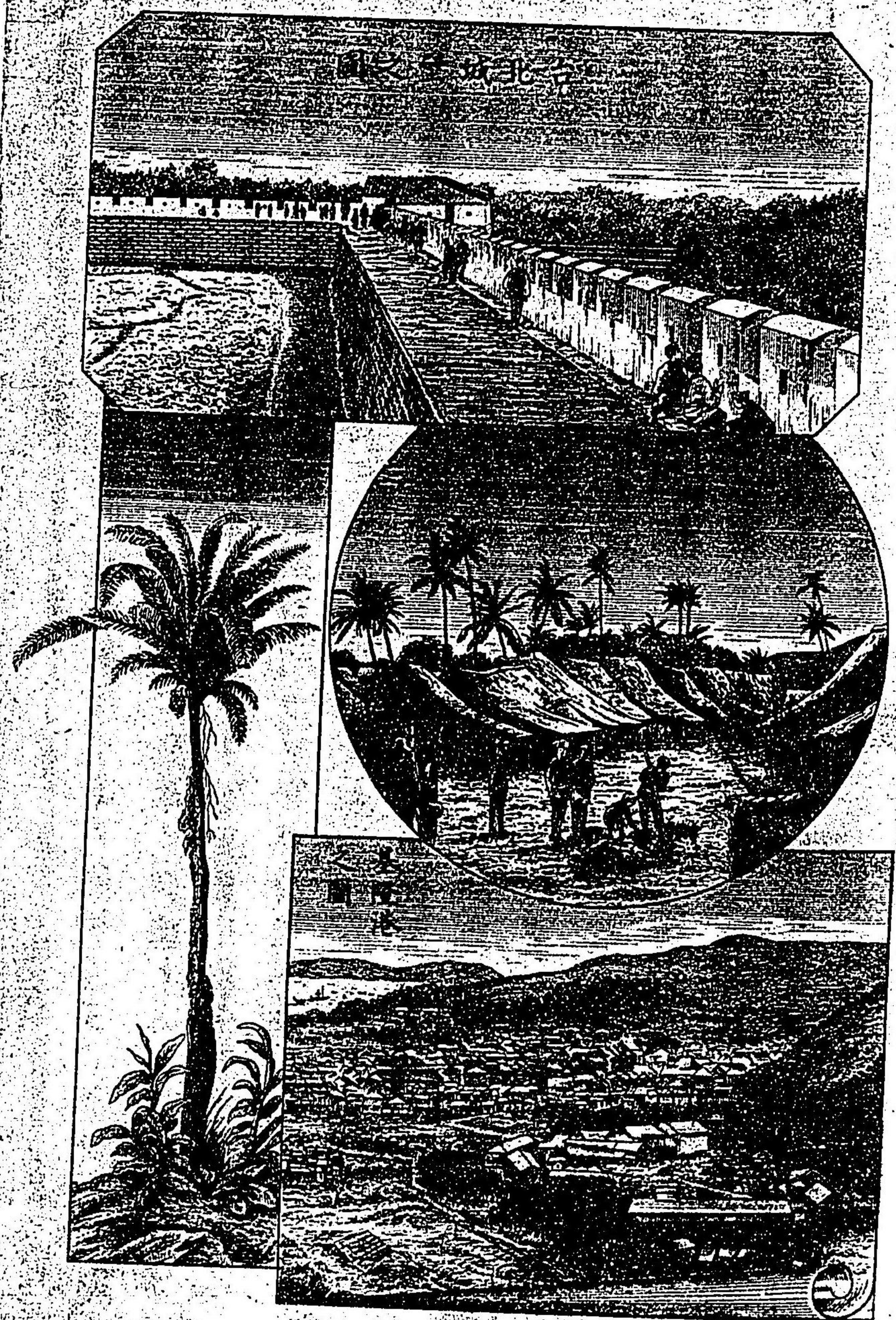
は、斷崖多く、良港に乏し、嶋の北部に於て、三貂角と北斗岬とは、東方に斗出し、その西に基隆灣あり、之より西に富貴角を廻りて、淡水灣あり、此の他、西岸に、安平、打狗等の港灣ありと雖、共に大船を入るゝに足らず、嶋の南端なる南岬と南西岬との間に、南灣あり、東岸は、港灣の記すべきものなし、澎湖列島には、馬公と稱する一港灣あり。

(五)山脈 本島の山脈は、中央部より、南部に於て、南北に走るものあり、之を玉山山脈といふ、北部は、山脈錯綜して、或は高原となり、或は、獨立の火山となり、玉山山脈中の最高峯を、玉山(一一、八五〇)又、モリソン山といふ、シリヴ、ア山(一一、三〇〇)は、又、頭圍山と稱し、北部の高峯たり、傀儡山は、鳳山の東方にあり、高さ五千尺以下らずと云ふ、その南に、卑南山あり、又、分水山、分水崙等の高峯あり、火山脈は、九州霧島帶火山脈と聯通せるものゝ如く、大屯山及び紗帽山等は、火山性の山岳なり、全島、硫黄及び温泉に富めり。

(六)河流 河流は、皆、山脈の間より發して、東西の海に入るを以て、大河長流の運輸に便なるもの鮮し、淡水溪は、島中の最大なるものなり、その上流に於て、大姑陷、新店、基隆の三流を合せ、延長三十餘里、淡水港に注けり、此の他、大肚溪、濁水溪、笨港溪等あり。

湖沼は、山脈の間所々にありと雖、未だ詳ならず、その大なるは、龍湖、又、水社湖といひ、南北一里餘、東西半里あり、その他、大屯山湖、赤山池等あり。

(七)氣候 臺灣島の南部は、熱帯に屬するを以て、氣候甚だ炎熱なり、故に、冬季と雖、高山の頂上、僅に雪を戴くのみ、然れども、夏時は、諸山より冷風吹き下りて、炎熱を拂へり、春季の候には、雨少くして、秋冬の候には、霖雨多し、溫度は、夏時に華氏八十五度、冬時に五十度を通例とす、その居住に困難なるは、一日の間に、屢、溫度の激變あること、是れなり。



(八)物産 本島の物産は、農産多くして、水産は、未だ開けず、其の主要なるものは、米、茶、砂糖、甘蔗、及び野菜類にして、米と甘蔗とは、一年二回の收穫あり、その他、蕎麥、玉蜀黍、大豆、落花生、煙草の類甚だ多し、材木には、杉、松、樟、楓、檫、榔、棕、桐、榕樹の類より、桃李、蜜柑、橙、無花樹等の果樹、最も多し。
 動物は、水牛、驢、馬、豚、鶏等の家畜あり、山野には、鹿、熊、豹、猿、狼、野猪、山猫、兎等あり、鳥類は、鷓鴣、鳩、雉、鴨、鵝等あり、魚類は、鯉、鱸、鯖の類あり、礦物類は、甚だ少くして、硫黄と石炭との外、數ふるに足らず。

第二 處誌

(一)臺北府及び其の近傍 臺北府は、臺灣北部の都會にして、臺灣總督府の在る所あり、四面、山を繞らし、其の南に淡水河あり、市街を、城内、城外の二に分つ、城内は、其の周圍に城壁を設く、城外は、南にある

を艚艚といひ、北にあるを、大稻埕といふ。全府の戸數二萬餘、人口十五萬あり。家屋ハ煉化造多く、支那風と西洋風との建築なり。臺北の東九里餘にして、基隆港あり。北海に面する良港なり。人口一萬餘、貿易場たり。鐵道は、此の港より、臺北を経て新竹に達せり。又淡水港は、臺北の北六里に足らずして、これ亦良港なり。人口七千餘、商業頗る繁盛あり。此所より、支那の福州に達する海底電線あり。淡水港の南に、新竹縣あり。人口四千餘、土地肥沃にして、産物多し。又臺北の東南に、宜蘭縣あり。人口六千、東海岸に臨める市街なり。

(二)臺灣府及び其の近傍 臺灣府は、全島の中央に位し、大肚溪、其の北を流る。此の府は、新設以來、日尙淺きを以て、市街の規模宏大なるも、未だ繁盛に至らず。

大肚溪の下流に、彰化縣と鹿港とあり。彰化縣は、人口二萬を有す。近傍の土地肥沃にして、耕作に適せり。六斗門は、臺灣府の南、濁水溪の

上流に位し、人口二萬あり。此の他、雲北縣、苗栗縣、埔里社廳等の都邑あり。

(三) 臺南府及び其の近傍 臺南府は、舊と臺灣府のありし所に於て、大都會なり。市街は、西方海に面して、安平港(人口一萬五千)を控え、人口十三万五千、商業繁盛の地なり。

打狗は、臺南の南にある要港なり。これより澎湖島に達する海底電線あり。此の他、鳳山縣、嘉義縣、恒春縣等の都邑あり。恒春縣は、本島最南の都邑にして、小繁華の地なり。

澎湖列島は、大小五十五島ありて、其中、稍大なるは、澎湖島、白沙島、魚翁島の三島なり。此の三島の間にある馬公港は、臺灣第一の良港にして、大艦數十艘を繋ぐに足る。

(四) 臺東州及び其の近傍 臺東州は、山脈の東部に位する都邑にして、秀枯樂溪の上流にあり。其の近傍の主要なる都邑は、卑南あり。卑

南は、恒春の北方、凡そ三十五里の所にあり。鳳山よりの通路ありて、頗る繁華なり。

第四章 人文地理

第一節 人口

我が國の人口は、國土の面積に比すれば、甚だ多く、四大島及び屬島を通過して、四千百三十八萬八千三百十三人あり。(明治廿六年未調査)之に、臺灣の人口、大約三百萬を合算すれば、全國の人口、大約四千四百三十八萬八千三百十三人ありとす。之を、全國の面積、二萬七千三百方里に配當すれば、一方里につき、一千二百六十人を得べし。此の如く、人口稠密なるは、世界各國に比較して、唯、白耳義、和蘭、英、吉利本國あるのみ。其の他は、皆、我が國の下にあり。

全國中、人口の最も稠密なるは、東京を中心とせる關東平野にして、

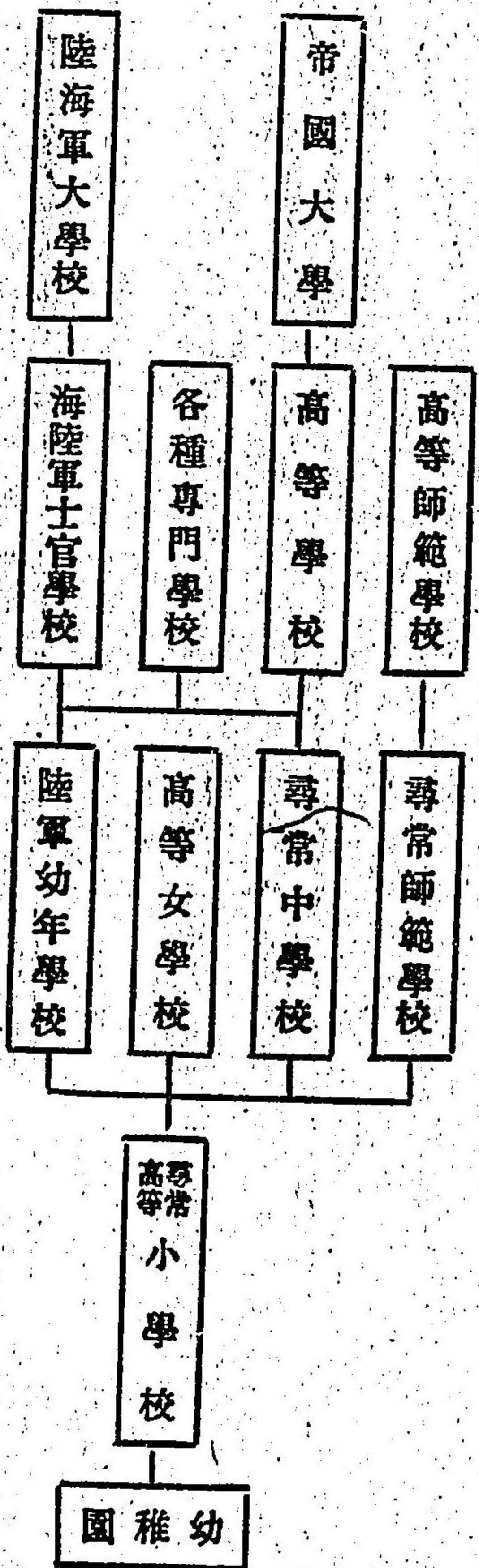
次ぎは、畿内平野、次ぎは、濃尾平野、次ぎは、讃岐の高松地方なり、又、人口の最も稀少なるは、北海道にして、次ぎは、本州の東北地方なり、而して、人口増加の割合は、明治二十一年より、五年間の平均、一年に四十萬人餘なりと云ふ。

國民は華族、士族、平民、三階級に分つ、各、其の數を概算すれば、平民最も多くして、四千二百萬人あり、士族は、之に次ぎて、二百萬人、華族は、最も鮮くして、四十人より過ぎず。

第二節 教育

我が國の教育は、古より行はれて、已に、文學武藝の外、忠孝仁義の道に至るまで、夙に發達せるものありと雖、其の大に進歩せるは、明治維新以後なり、此の時より、全國に、大中小の學校を起し、普く國民の子弟をして、就學せしむることゝなせり、故に、現今、官私立の諸學校

を合算すれば、その數二萬五千五百餘にして、生徒の數は、三百四十九萬餘あり、其中、小學校の數、二萬三千六百餘にして、其の生徒は、三百二十八萬餘あり、而して、學齡兒童百人につき、就學生徒、殆ど五十九人の割合なり、今、諸學校の種類、及び、其の連絡につきて、概要を示すこと、左圖の如し。



此の他、教育の機關は、博物館、圖書館あり、新聞雜誌の數は、大約八百種にして、圖書出版の數は、毎年二萬五千部以上の多きに達せり。

これ、皆、直接若くは間接に、教育の要具となるものなり。

第三節 宗教

現今、我が國に行ゆる、宗教は、神道、佛教、及び、基督教の三種ありて、國民の、何れの宗教を奉ずるも自由なり、其の中、最も盛なるは、佛教にして、他の二教は、其の勢遙に劣れり。

(一)神道 神道の、日本固有の宗教にして、遠く神代に起り、其の宗派も亦種々あり、全國の神社は、大約十九万一千餘にして、神官の數、一万四千百餘人あり。

(二)佛教 佛教の、其の傳來、遠く一千三百餘年以前にありて、其の宗派には、天台、眞言、淨土、眞宗、臨濟、黃檗、曹洞、法華あり、其の中、眞宗、最も盛なり、全國の寺院の、七万二千餘、僧尼合せて、五万二千人餘あり。

(三)基督教 基督教は、其の傳來の日久しからず、又、一時之を禁止せ

し等のことありて、未だ盛ならず、其の宗派を、舊教、新教、希臘教の三つに大別し、尙、之より數多の小派に分ちたり、全國、會堂の數は、八百餘にして、傳道師の數は、一千五百人餘とす。

第四節 氣質

國民は、一般に優美にして、思慮深く、學術技藝に堪能なり、又、勇敢の氣概ありて、忠君愛國の志氣に富み、一旦事あるに方りては、一身一家を忘れて、公事に従ふ、是等、他邦人の及ぶ能はざる所ならん、唯、規模狹小にして、遠大雄偉の氣象に乏しと云ふは、大に省慮すべき所なり。

又、全國中にては、各地方により、多少の差異あり、今、之を概言すれば、東北人は、朴直に、關東人は、義俠に、畿内は、優雅に、中國は、温順に、四國は、篤實に、九州は、剛直あり、然れども、又、何れも、之に伴へる偏僻ある

を免れず。此の外、北海道の土人は、従順なれども、臺灣土人は、慍悍にして争鬪を事とする者ありといふ。

第五節 風俗

我が國の風俗には、古來一種の特有ありて、剃髮染齒、文身遊戯等より、衣食住に至るまで、大に外國と異なるものありしが、近年次第に、其の悪弊を改良するに至れり。其の風俗は、概ね、素朴にして、自然を愛し、修飾を誇示するの風鮮し。

(一)飲食 食物は、米、麥、野菜を、常食とし、鳥魚の外は、肉類を食する處と鮮し。然れども、都鄙によりて、大に差異あり。都會は、肉食牛乳の類、漸く増加せりと雖、僻邑に至れば、尙、粟、稗、蔬菜、玉蜀黍、甘藷の類を食とし、北海道の土人と、臺灣生蕃とは、山野を跋渉して、鳥獸の肉を食ふもあり。

(二)家屋 家屋は、土地の情況と、貧富とによりて、差異ありと雖、一般に、木造にして、瓦葺板葺なり。都會には、石造、煉瓦造、塗家等ありと雖、村落には、殆ど稀なり。但、城樓、殿堂の類は、一種の築造法ありて、其の觀甚だ壯麗なり。

(三)衣服 衣服は、和洋の二種ありと雖、寬濶の和服を用ふるもの多きは、自ら、國土の氣候に基きたるなるべし。禮服には、一定の制ありて、其の種類も、亦多し。衣服の料は、毛布、絹布、綿布、麻布等にして、各々の土地の氣候に適したるを用ふ。

第六節 農業

我が國は、氣候溫暖にして、風雨宜しきに適し、殊に、地味肥沃なるを以て、農業、夙に發達して、農民の數、全國人口の三分の二を占む。然るに、近來、更に、農學校、試作場、共進會等を起して、益、改良の途を謀れり。

今、全國の耕地の反別を合すれば、

田二、七九八、三二八町 畑一、三二八、二六七六町

合計五百八萬町餘あり、毎年收穫する主要の農産物の、大數左の如し。

米	四一、八六六、〇〇〇石	甘蔗	一三三、一三八、〇〇〇貫
麥	一九、八二二、〇〇〇石	綿	一二、五八四、〇〇〇貫
豆	三、一一一、〇〇〇石	煙草	七、六四三、〇〇〇貫
粟	三、〇一七、〇〇〇石	藍	一五、四四七、〇〇〇貫
甘薯	五六八、三七八、〇〇〇石	麻	三三四、〇〇〇貫
製茶	七、六四〇、〇〇〇貫	蠶糸	一、七七五、〇〇〇貫
砂糖	七、一七五、〇〇〇貫		

此の中、米、麥、茶、蠶絲の如きは、外國に輸出するもの、甚だ多し、又、臺灣より産する茶、砂糖の類、其の額頗る多しと雖、茲に掲げず。

第七節 鑛業

從來、我が國の鑛業者は、其の數甚だ鮮かりしが、近年次第に増加し、採鑛の方法も、亦、大に進歩せり、而して、其の産出する鑛物の種類も、甚だ多くして、殆ど、産せざるもの無し、是れ、實に、我が國の地質の複雑なるに由れり、今、左に、主要なる鑛産物の、大數を示す。

硫黃	三九、八一四、〇〇〇斤	石炭	三三、三二七、〇〇〇噸
銅	三〇、〇〇九、〇〇〇斤	金	一九六、〇〇〇匁
安質母尼	二、五四一、〇〇〇斤	銀	一八、四六九、〇〇〇匁
滿俺	三、七七一、〇〇〇斤	鐵	四、七三四、〇〇〇貫
鉛	一、八五五、〇〇〇斤	石油	一〇、〇〇〇石

石炭は我が國の鑛産中の主位に居るものにして、その産額は、九州に於て八分を占め、蝦夷島は、僅に一分餘を出すに過ぎず、而して、世

界中、歐米の石炭國には及ばず、雖、亞細亞諸國には、其の産額、我に及ぶもの無し。

銅は、石炭に次ける産額ありて、足尾(下野)別子(伊豫)を最とし、阿仁(羽後)荒川(加賀)尾去澤(陸中)等、これに次ぐ、之を、世界の銅山國に比すれば、北米合衆國、西班牙の次に位するものなり。

硫黄の産額は、世界中第二位に位し、伊太利の外、我が國に及ぶもの無し。其の産地は、北海道に於て八分餘を占め、其の他は、各地より産出せり。

其の他の鑛産中、俺質母尼は、最も多く、世界中、佛國に次ぎて、第二位を占めたり、又、金、銀、鐵、鉛、石油の類より、水晶、大理石、花崗石等、石材の産出、亦、鮮からず。

製鐵の業は、最も必要にして、國家の開明、之れに由るもの多しと雖、從來、その需要の八分は、外國輸入によれり、但、近年、其の産出、次第に

増加の勢あるは、甚だ喜ぶべきことなり。

第八節 工業

我が國民ハ、意匠に富み、手工に巧なるを以て、古來、精巧なる製作品鮮からず、唯之を海外に輸出するに至りしは、近年のことなりと雖、工業は、國民の生業中、最も進歩の勢あり、現今諸職工の數は、大約四十三万人にして、毎年、其の産額の大數左の如し。

織物	五七、五三、〇〇〇圓	酒類	五、六〇九、〇〇〇石
陶器	一、一九一、〇〇〇圓	醬油	一、二七九、〇〇〇石
磁器	二、七四〇、〇〇〇圓	摺附木	四、〇六八、〇〇〇圓
紙類	四、六〇〇、〇〇〇圓	疊表	一、二三二、〇〇〇圓
綿糸	一八、〇〇〇、〇〇〇圓		

織物の中、絹織は、京都、桐生、福井、足利を最とす。その中、京都の西陣は、

精巧を以て、夙に海外に聞ゆ。又、木綿織は、愛知和歌山愛媛を第一とし、大阪、奈良、埼玉等、之に次けり。

酒類は、其の産額と品質とに於て、池田、伊丹、攝州を最とし、之に次ぐは、愛知、福岡、長野等あり。又、近年大に増加せる麥酒は、東京、大阪等に於て、多く醸造せり。

陶器、磁器は、京都、愛知、石川、佐賀を推し、静岡、岐阜、覺島等、之に次けり。綿糸は、近年著しく、其の製産を増加し、大阪、東京等、最も多し。その他は、岡山、愛知、京都等なり。

紙類は、日本紙に於ては、高知を第一とし、愛知、静岡、岐阜等、之に次ぐ。又、洋紙類は、東京、福岡、三重、兵庫、静岡等より、多く産す。

摺附木も、亦近年大に、其の産額を増加し、兵庫を最も多額とし、大阪、愛知、東京等、之に次けり。

第九節 林産

我が國は、氣候温暖に、地味肥沃なるを以て、到る所の山林、良材に富めり。其の著しきものは、陸奥、羽後、兩野、木曾、越中、伊豆、駿河、遠江、伊勢、大和、紀伊、日向等の山林にして、各、特有の良材あり。其の中、松、杉、檜、樺、椴、樟等、最も多し。

全國山林反別

一四、七三〇、〇〇〇町

山林立木數

三九、五二八、〇〇〇、〇〇〇本

此の産額中、支那地方へ輸出するもの、近年漸く増加せり。山林ハ、國土の風景を形成する上、主あるものにして、又、之によりて、氣候の變化を調和するの効、鮮からず。左れば、その保護の法も、近年漸く整ふに至れり。

第十節 牧畜

牧畜の業は、未だ十分に進歩せざるを以て、其の産出も亦多からず。牛馬は、主要なるものにして、鶏豚等之に次けり。其の産地を記すれば、馬は、奥羽、北海道及び九州に多く、牛は、中國、四國、九州に多し。豚は、其の數甚だ多からざれども、覺島、千葉、長崎、宮崎等に稍多し。鶏は、農家の餘業にて飼養し、專業とするもの鮮ければ、其の産地も亦著しき所なし。今、牛馬牧養の數を掲ぐれば、

牛 百十萬五千頭
馬 百五十六萬二千頭

此の他、綿羊、山羊の類は、甚だ稀にして、其の數記するに足らず。

第十一節 水産

我が國の河川及び湖海は、最も水産物に富みて、魚介、苔藻の産出鮮からず。殊に、近年漸く、此の業の進歩せんとする勢あり。久しからず

して、國の大富源を開拓し得るに至るべし。今、近時一年間に於ける水産製造品中、多額なるものを、左に掲ぐ、

鯉節	一、七四三、〇〇〇貫	昆布	一、二二八、〇〇〇貫
鰻	一、四九〇、〇〇〇貫	荒布	一、二八八、〇〇〇貫
鰯	二、四七五、〇〇〇貫	和布	一、四八〇、〇〇〇貫
鮭	四、五八八、〇〇〇貫	魚油	一、九六八、〇〇〇貫
鯖	二、〇七五、〇〇〇貫	搾滓	三、四二一、〇〇〇貫
海羅	二、〇七八、〇〇〇貫	食鹽	六、六四九、〇〇〇石

此の他、鯨、虎、膾、豚、獸は、重要な産物にして、其の他の品類は、枚擧げ暇あらず。毎年、水産價格は、總て、三千六百五十萬圓以上を及べり。

第十二節 商業

商業は、生産と交通とに伴ひて進歩するは、明なることにて、近年、大

に、商業の隆盛に赴けるは、即ち、生産交通の進歩せるによれるものとす。

(一)内國商業 内國商業の盛なる地は、東京、大阪、名古屋を最とし、京都、徳島、堺、仙臺、甲府、廣島等、之に次けり。是等の地は、皆、其の近傍に生産地を控る。且、交通の便備はりて、貨物の集散、必ず、茲に藉るを以てなり。商業地には、必ず、商業の機關あり、其の機關は、銀行、會社、取引所、及び、運漕業等にして、一方には、貨物の運輸を便利とし、一方は、金銀貨幣の融通を敏速ならしむるなり。

(二)外國貿易 外國貿易は、横濱、神戸、大阪、長崎、函館、新潟の六港なり。此の外、特別輸出港十餘ヶ所あり。今、明治二十七年の輸出入總價格と、其の主要なる輸出入品とを、左に掲ぐ。

輸出品總價額	一億千三百二十四万六千八百八十六圓
輸入品總價額	一億千七百四十八万九千五百五十六圓

輸出品ノ重要ナルモノ

生糸、眞綿	四二、八九三、〇〇〇圓
穀物、及、飲食物	一〇、八一三、〇〇〇圓
布帛、衣裳類	一七、七三五、〇〇〇圓
製茶類	七、九三〇、〇〇〇圓
金屬類	六、〇三〇、〇〇〇圓
藥材、及、染料	二、四六二、〇〇〇圓
油、及、蠟	一、二七九、〇〇〇圓
雜貨類	二二、〇〇三、〇〇〇圓

輸入品ノ重要ナルモノ

兵器、及、機器	一五、九四九、〇〇〇圓
穀物、及、飲食物	一三、五二七、〇〇〇圓
布帛、及、糸類	四四、五三〇、〇〇〇圓
砂糖	一三、三二五、〇〇〇圓
金屬類	一〇、九三三、〇〇〇圓
染料、及、彩料	一、九七三、〇〇〇圓
油、及、蠟	五、六九二、〇〇〇圓
雜貨類	三、五一三、〇〇〇圓

我が國の輸出は、北米合衆國、最も多く、香港、支那、佛蘭西、英吉利、印度、濠州、加奈多、伊太利等、之に次けり。又、我が國の輸入の多きは、英吉利を最とし、支那、印度、香港、獨逸、北米合衆國、佛蘭西等、之に次けり。

第十三節 交通

交通の國の開明に關すること、最も大なるを以て、近年、大に之を改良して、今日は、全國中、略、其の不便無きに至れり、交通の機關の、道路、船舶、鐵道、郵便、電信、電話等なり。

(一)道路 道路の、國道、縣道、里道ありて、都會より村落に至るまで、概ね、車馬を通ずるを得べし、今、全國中、主要の道路を、左に掲ぐ、其の位置、方向等の、地圖につきて、研究すべし。

- 東海道 中山道
- 陸羽街道 北陸街道
- 山陰街道 山陽街道
- 四國街道 九州街道
- 蝦夷島南海岸道 蝦夷島北海岸道
- 臺灣西部海岸道

(二)船舶 船舶の通路は、我が國に、自然に備りたる便利ありて、海岸線、大約七千五百里の航路と、湖沼河流の渡船とは、其の便利、最も大なり、故に、近年、船舶の數増加して、其の數、大略、左の如し。

- 西洋形汽船 六百八十艘 日本形船五十石以上 一万六千九百二十五艘
- 同 帆船 七百五十艘 同 五十石未満 五十七万九千艘

(三)鐵道 鐵道は、明治五年始めて、東京、横濱間に創設して、より以來、各地方に延長して、今、其の全長二千五百哩以上に達し、尙、工事中の線路、甚だ多し、馬車鐵道は、全長三十七里餘に及べり、又、京都市中には、電氣鐵道ありて、往復せり、是等鐵道の位置、方向は、地圖につきて、研究すべし。

(四)郵便 郵便は、明治四年の創設にして、爾來、大に整備し、都邑には、皆、郵便局を設け、村落と雖亦、郵便函の設あらざるは無し、而して、其の集合と配達とは、皆、時間を期して、誤らざるは、誠に、便利なるものと

なり、今現在の郵便局、郵便線路及び、一年間於ける郵便物の大數を示すこと、左の如し。

郵便局	三千七百十八	郵便線路	二萬三千七百五十四里
郵便函	二萬二千六百八十七	郵便物數	三億二千八十九萬六千個
(五)電信電話	電信は、明治二年創設し、電話は、同十八年より開始せられたり、電信の概ね、全國の都邑に通じて、外國線も連絡せるもの鮮からずと雖、電話は、唯東京、橫濱、大阪、神戸の四市内に行はるのみ、現在、電信電話の景況、大略、左の如し。	電信局	六百三十六
同取扱所	八十	電信線路	三千八百二十六里
電話交換局	四	同一年間音信數	六百二十五萬六千二百五十八
同交換所	二十四	電話線路	百六十五里
		同交換加名者	二千六百七十八

第十四節 政治外交

我が國の萬世一系の皇室を奉戴する、立憲君主國にして、天皇陛下の親ら、立法、行政、司法の三大權を總攬し給へり。

(一)立法部 立法部の帝國議會にして、貴族院と衆議院との兩院より成れり、貴族院議員の皇族、華族及び國家に勳功あり、又ハ學識ある勅選議員及び、各府縣の多額納稅者にして、其の數、大約三百人とす、衆議院は、直稅十五圓以上を納むる公民中より撰出せる議員にして、其の數三百人なり、而して、議會の開期は、毎年十一月と定め、總ての法律は、此の兩院の協贊を経るものとす。

(二)行政部 行政部は、内閣及び、外務、内務、大藏、陸軍、海軍、司法、文部、農商務、遞信、拓殖務の十省より成れり、内閣總理大臣及び、十省の大臣ありて、諸政を掌る、十省の外に、宮内省あり、其の大臣は、皇室の事務を掌りて、國政に干らす、此の他、樞密院ありて、天皇陛下の顧問府

となり、會計検査院ありて、諸官廳の會計を管督す。

(三)司法部 司法部は、大審院、控訴院、地方裁判所及び區裁判所より成れり。大審院は最高法衙にして、控訴院は、東京、大阪、名古屋、廣島、長崎、仙臺、函館に、各一ヶ所を置き、地方裁判所は、北海道廳に三ヶ所、各府縣に各一ヶ所、即ち、四十九個あり、區裁判所は、其の下に屬し、全國を通じて、三百ヶ所あり。

此の外、地方廳は、一廳、三府、四十三縣ありて、各、其の長官を置き、其の下に、郡、區、市、町、村役所あり、各、其の長を置く、又、各府縣に、府縣會あり、郡、區、市、町、村にも、各、會議を設く、臺灣には、別に、臺灣總督府ありて、全島の政務、及び、軍務を總管せり。

(五)外交 外交は、外務省の所管にして、現今、我が國と條約を締結せるは、朝鮮、支那、英吉利、佛蘭西、獨逸、露西亞、澳地利、伊太利、西班牙、葡萄牙、瑞典、那威、白耳義、和蘭、噠馬、墨西哥、北米合衆國、智利、秘魯、布哇の二

十國なり、各條約國は、互に公使を派遣して、兩國の交際、及び、其の他の要務に當らしめ、又、貿易場には、領事を置きて、商業、及び、其の他の事務を司らしむ。

第十五節 軍備

我國の陸海軍は、天皇陛下の、親ら統率し給ふ所にして、全國皆兵の制なれば、國民にして、滿二十歳より四十歳までの男子は、凡て兵役に服するの義務あり、兵役は、常備兵役、後備兵役、國民兵役の三種とし、又、常備兵役を分ちて、現役、豫備役の二とす。

(一)陸軍 陸軍は、全國を、七師管に分ち、各師管に、一師團の兵を置く、又、一師管を、二旅管に分ちて、各旅管に、一旅團の兵を置く、一旅管を、更に分ちて、四大隊區と爲し、各大隊區に、一大隊の兵を置けり。

東部都督部(東京)		近衛師團(東京)	近衛第一旅團(東京)
第一師團(東京)		近衛第二旅團(東京)	
第二師團(仙臺)		第一旅團(東京)	
第三師團(仙臺)		第二旅團(佐倉)	
第七師團(札幌)		第三旅團(仙臺)	
第八師團(弘前)		第四旅團(新發田)	
第三師團(名古屋)		第五旅團(札幌)	
第四師團(大阪)		第六旅團(根室)	
第九師團(金澤)		第七旅團(弘前)	
第十師團(姫路)		第八旅團(秋田)	
第五師團(廣島)		第九旅團(名古屋)	
第六師團(熊本)		第十旅團(豊橋)	
第十一師團(九龍)		第十一旅團(大阪)	
第十二師團(小倉)		第十二旅團(伏見)	
		第十三旅團(敦賀)	
		第十四旅團(福知山)	
		第十五旅團(廣島)	
		第十六旅團(山口)	
		第十七旅團(熊本)	
		第十八旅團(大村)	
		第十九旅團(九龍)	
		第二十旅團(小倉)	
		第二十四旅團(久留米)	

此の表中、第八以上の師團及び第十五以上の旅團は、唯豫定のみにして、未だ設置せられず、故に、此の表と本書の本文とは、一致せず、然れども、遠からずして設置せらるべきものなれば、茲には、其の豫定をも併せて掲げたり。

又、小笠原島、佐渡、隠岐、大島、沖繩、五島、對馬に、警備隊を置き、此の他、要塞砲兵隊、憲兵隊等あり、而して、各師團及び、其の他、諸隊の人員を合算すれば、將校より兵卒に至るまで、大約六萬五千人に下らざるべく、之に、豫備、後備を合せて、軍人の總數は、二十七萬三千人餘あり。

(二)海軍 海軍は、全國の海岸及び海面を、五區に分ち、各區に鎮守府を置く、其の所在地は、即ち、軍港にして、軍艦の繋留所なり。又、鎮守府には、海兵團を置き、軍艦乗組員の屯在所とす。

- 第一海軍鎮守府(横須賀)
- 第二海軍鎮守府(吳)
- 第三海軍鎮守府(佐世保)
- 第四海軍鎮守府(舞鶴)(定議)
- 第五海軍鎮守府(室蘭)(定議)

現今帝國軍艦の數は、四十五隻にして、其の噸數は、八萬二千四百四十噸、尙、製造中の軍艦四隻あり、其の中、最も大なるは製造中の富士、八島、二艦にして、各、一萬二千噸あり、之に次ぐは、清國より収容せし鎮遠にして、七千三百三十五噸とす。
海軍々人の數は、現役一萬二千八百餘人にして、之に、豫備役、後備役を合せて、總人員一萬五千三百人餘あり。

中學 教
日本地理 終

明明明
治治治
三三三
十九九年
年年年
二二二
二二二
月月月
三三三
十三十七
日日日
再訂發
版正發
發行刷

定價金 參拾五

東京市本所區練馬町三丁目廿八番地

中等學科教授法研究會

東京市本所區練馬町三丁目廿八番地

問 伸 正 修

東京市日本橋區藥研町三十三番地

仁 科 衛

東京市日本橋區藥研町三十三番地

厚 信 舍

東京市日本橋區通油町十八番地

三 穗 書 店

東京市日本橋區本石町三丁目七番地

杉 山 書 店

大阪市東區備後町四丁目

石 井 書 店



右代表者
印刷者
印刷所
發賣所
發賣所
發賣所

